

研修名 ペアレントパートナー養成講座 北部

平成27年10月19日(月) 20日(火) 21日(水)

講 師 本多 泉 氏

1 講演要旨

DKTの最終ゴール・・・親が暴力以外の方法で子どものしつけを行うスキルを身に付け、子どもとの良い関係づくりに役立てる。

子育てに困っている人に対して、帰宅後すぐに実践できる方法がDKTなので『叩く』以外にどうすれば良いのか代替行動を伝える。

DKTの進め方

- ① レビュー (今日、何について学ぶのか目的とゴールを知らせる。2回目からは前回学んだことの復習もする)
- ② 講義 (学習する内容についてステップに添って、定義や意義を知る)
- ③ モデリング (ビデオを見て、又はシーンの例より対処法について学ぶ)
- ④ 講義 (ロールプレイの前に進め方やステップ、方法などについて確認する)
- ⑤ ロールプレイ (実際にシーンを想定しやってみる、練習)
- ⑥ まとめ (習ったことのまとめをして確認する)

※守秘義務確認・・・リラックスして何でも話せる場にする。間違っている人はいない。個人に対し否定はしないこと。

<セッション1>わかりやすいコミュニケーション

ゴール子どもの行動を具体的且つ簡潔に表現する方法を身に付ける。

※具体的表現とは、見たり聞いたり数えたりできるもの

<セッション2>良い結果・悪い結果

ゴール子どもの良い行動を増やし、子どもの悪い行動を減らす方法を身に付ける。

- ・良い結果・・・子どもが「よかった」と思えるものを与える
- ・悪い結果・・・子どもが「しまった」と思えるもの

※大事なことは、その結果は子どもの興味を引くのか(重要性)、すぐに結果を与えられるのか(即時性)、結果が与えられる条件は明確か(連続性)、結果の程度(大きさ)。

※保護者の文化・性格は変えられないが、行動を変えることはできる！

<セッション3>効果的な誉め方

ゴール効果的に誉める方法を身に付ける。

※誉めるタイミングを逃さない！

【ステップ】

- 1) 賞賛を与える(誉める、頭をなでるなど)
- 2) 望ましい行動を表現する(親がして欲しいことを具体的に伝える)
- 3) 理由を述べる(子どもにとってなぜ、その行動が正しいのか説明する)
- 4) 良い結果を与える(誉めるだけでも良い)

<セッション4>予防的教育法

ゴール子ども・・・これから起こりうる状況のために、前もって対処法を練習させることで、効果的に対処させる。

保護者・・・怒りをコントロールし、落ち着きを維持する方法を身に付ける。

※怒りを抑える方法を決めておく。抑える方法があったことを思い出すだけでも効果あり。

【ステップ】

- 1) 子どもにしてほしいことを説明する（具体的に）
- 2) その理由を説明する。（子どもの側に立った理由）
- 3) 練習する（楽しく、短く、励まして）

<セッション5>問題行動を正す教育法

ゴール子どもの問題行動に介入し、それに対して望ましい行動を提示し、練習させる

※親子とも落ちついた状況でのみ教育効果あり。

※練習ができたなら誉める。

【ステップ】

- 1) 問題行動をやめさせる（穏やかに、具体的に指示を与える、共感的表現）
- 2) 悪い結果を与える（叩かず怒鳴らず、子どもの年齢と能力を考慮して）
- 3) 子どもにして欲しいことを説明する（具体的に取るべき行動を知らせる）
- 4) 練習する（短く誉め、励まして）

<セッション6>自分自身をコントロールする教育法

ゴール子どもが感情的になって反抗したり、泣き叫んだり、すねたり親子間の緊張が高まる場面の対処法を身に付ける。

【第1ステップ】

- 1) 親自身が落ち着くヒントを実行（10数える、深呼吸するなど）
- 2) 子どもにも落ち着くためのヒントを与える（深呼吸させるなど）
- 3) 落ち着くまでの時間を与える（様子を見て）

【第2ステップ】

- 1) 共感的表現（～したいのは分かるよ）
- 2) 状況を説明する（分かりやすく）
- 3) 落ち着くヒントを子どもに与える（どうすれば興奮が抑えられるのかを考える）
- 4) 落ち着くヒントを練習させる
- 5) 本の問題に戻る（悪い結果）

<セッション7>フォローアップのセッション

ゴールDKTを思い出す

※悩みを共有しながら教育法の使い方、効果について話し合う。

2 感想

日頃 保育の中で子どもに対して誉めたり叱ったり様々な言葉掛けをしてはいるが、具体的に（見たり聞いたり数えたりできることで）子どもに分かりやすく伝えているだろうか？と今回の研修を受講し、改めて振り返り考えさせられた。子どもの発達や特質を適確に捉えることは常に意識しており、個々に対応すべく保育の内容を工夫しているつもりだった。しかしDKTを学び、これまでは問題行動が起こってしまってから対処していたことが多く、繰り返し同じような行動をとる子どもに対する手立てとしては不十分であったと感じた。今後、職員間でも学ぶ時間を作り保育の中で活用できるよう 我自身がトレーナーとなり、実践を想定しながらお互いに学びを深めていくことの必要性を感じた。

またすぐに実践できるという利点を活かし、DKTを怒鳴らない子育ての支援として保護者にも伝え、子どもとの良い関係づくりに役立ててもらいたい。

（記録 （公財）鉄道弘済会 福知山保育所 澤田 美弥子）